

技術展示コーナー，見学会，交流会，特別講演会，市民向け行事の報告

第54回地盤工学研究発表会（さいたま大会）実行委員会

1. 技術展示コーナー

1.1 はじめに

第54回地盤工学研究発表会（さいたま大会）は、2019年7月16日～18日の3日間にわたり、埼玉県さいたま市の大宮ソニックホール及び大宮ソニックシティビル、大宮パレスホテルにおいて実施しました（口絵写真-1～4、<http://u0u1.net/EDoR>）。すべての会場が、JR大宮駅より徒歩5分という好立地に建つ施設でした。

技術展示は、ソニックシティビルB1階の第1～5展示場すべてを使用して開催しました。今回の技術展示ブースには79ブース（74団体）の出展をいただき、材料、調査・試験法、解析法、設計・施工法、防災・環境保全等の技術について紹介がなされました（口絵写真-5～8）。

技術展示への来場者数は、3日間の累計で約4,000名（推計）と非常に多くの方々にお越しいただけました。地盤工学研究発表会は、ご承知の通り公益社団法人地盤工学会の最大のイベントです。このような技術展示への多くの参加者数は、この発表会の場が技術・知見を広め、情報を得るための貴重な場であることの証と言えます。この場を借りて、技術展示に出展していただいた特別会員及び機関・団体の皆さま、来場者の皆さま、出展者募集に際してご協力いただいた皆さま方に御礼申し上げます。

1.2 技術展示コーナーでの工夫と試み

さいたま大会でのブース数は、第52回大会（名古屋大会）の73ブースを超え、過去最大となりました。これに対して、さいたま大会では展示会場の床面積は十分な広さがありましたが、建物の構造上の制約から技術展示コーナーは2カ所の分散開催とせざるを得ませんでした。結果的には、A会場（第1展示場）では48ブース、B会場（第2～5展示場）では31ブースという状況での開催となりました。

出展サイドの希望をできるだけ多く叶えるためにブース配置の割り振り方法の検討、展示会場が一般セッションの会場と階や建物が離れていることから展示への来場者の誘導等が準備段階からの懸案事項でした。ブース割りは過去のどの大会でも悩ましい問題であり、大会ごとに得られた経験的な知見は次回大会の重要な引継ぎ事項でもあります。第53回大会（高松大会）では展示者の業種や地域性を考慮したと伺っていますが、さいたま大会では出展者の希望ブース位置を伺ってブース割りに活かすよ

うにしました。さらに特別会員クラス順に希望ブースを割り付けることも試行しました。

ただ、出展者の希望ブース位置を伺っても、現実的には全ての出展者のご希望に沿うことは不可能でした。そこで建物レイアウト上、奥まった位置にあるB会場（第2～5展示場）に対しては休憩スペースを多く配置し、会議録のダウンロードもできるようにするとともに、特別会員PRコーナー、G-CPD登録機を設置するなど、大会前にできる限りの配慮をしました。それでも、実際にはA会場と比べるとB会場は来場者の滞在時間が短いように見受けられたため、大会中でも休憩スペースを増やしたり、発表セッションの合間にエレベーター前で誘導したりする等の対応をしました。各会場への来場者にはA/B会場で大きな差はなかったため、ブースの向きの問題があったのかもしれませんが、A会場では通路を挟んでブースを向き合う配置にしましたが、B会場では背負い式のブース配置でした。これは会場の形状に起因した選択でした。ブースの向きについては今大会の反省事項であり、重要な知見として次回以降の大会に引き継ぐべきものと考えています。

その他、市民向けの実機展示が会場の制約のために実施することができず、急きょ技術展示コーナーで実機展示をすることとなりました。実機展示にご協力いただいた特別会員の皆さま方に御礼申し上げます。

1.3 おわりに

出展者アンケートによると、さいたま大会における技術展示に関しては概ね好評でしたが、B会場においては来場者の動線の保持に対するご不満、搬入出の段取りやその連絡に関するご意見をいただきました。

また、ドリンクコーナーでは従前の大会での状況を考慮して飲み物を準備していましたが、想定を大きく超える需要のために3日目の午前中にはドリンクの提供が終了してしまいました。参加者の皆さまにはご不便をおかけし、申し訳ありません。

本大会で得た知見と課題は、次期開催地に引継ぎをいたします。

2. 見学会

2.1 はじめに

大会1日目の7月16日（火）と大会3日目の7月18日（火）の午後に、2つの見学会を用意しました。見学

先は、地盤工学に係わる見学先、並びに、さいたまらしい見学先ということで、前者については応用地質（株）のご協力を得て OYO コアラボ試験センターを、後者については東日本旅客鉄道（株）のご協力を得て大宮総合車両センターとすることとしました。いずれもさいたま市内の見学先でしたので、現地集合・現地解散という形で実施しました。

2.2 見学会 A (OYO コアラボ試験センター見学)

本見学の受け入れ可能人数は 20 名で、定員いっぱいまで事前申し込みをいただいていたのですが、直前のキャンセル等の結果、実際には 13 名の方に参加いただきました。当日は、コアラボ試験センター長の柿原芳彦様の歓迎のあいさつ、概要説明の後、2 つの班に分かれて見学しました（口絵写真-9~10）。見学では、試験に供する土の成形から説明いただき、液状化試験などの割となじみのある室内土質試験から、一軸引張試験、土の弾性変形特性を調べるためのベンターエレメント試験、礫質土の強度・変形特性を調べるための大型三軸試験、不飽和土の特性を調べるための保水性試験・三軸試験に加えて、メタンハイドレート胚胎コアの弾性波や比抵抗を計測するための試験装置、重金属溶出や盤ぶくれ問題に対応するための化学試験を紹介いただきました。普段目にするのがない土質試験は、参加者（半数は学生会員）には新鮮だったようで、大いに見学会を楽しんでいただけたようです。

2.3 見学会 B (JR 東日本大宮総合車両センター見学)

本見学の受け入れ可能人数は 30 名で、ほぼ定員いっぱいまで事前申し込みをいただいていたのですが、直前のキャンセル等の結果、実際には 17 名の方に参加いただきました。当日は、はじめに総務課の方から大宮総合車両センターの歴史（1894 年設立、名称はいろいろ変わったが 125 年間の沿革）や役割（主に首都圏を走る車両の大規模なメンテナンスや新造・改造）、ここで担当している車両（首都圏の通勤型車両や特急電車）等について説明していただいた後、工場内を見学しました（口絵写真-11~12）。車輪・輪軸や台車の修繕・検修、車体の修繕、工場への車両の入出場、車体塗装を行っているところを見学した後、蒸気機関車の大規模な修繕についても見学しました。普段目にするののない車両の検査・修繕、特に蒸気機関車の大規模な修繕を JR 東日本管内で行っているのはここだけということで、参加者の皆様は興味を持って見学いただけたのではないかと思います。

2.4 おわりに

今回の見学会は、見学先が大会会場近くであり、かつ、多くの方に興味を持っていただける内容であったことから、多くの方々に事前申し込みをしていただきました。実際に参加いただいた方々には見学を楽しんでいただけたようで、ほっとしています。一方で、見学会参加の気軽さが裏目に出て、多くのキャンセルが出てしまったことは残念に思います。

3. 交流会

3.1 はじめに

さいたま大会 2 日目に、大会メイン会場であるソニックシティに隣接するパレスホテル大宮のローズルームにおいて交流会が開催されました（口絵写真-13~14）。

今回は、大宮という東京都心へのアクセスが良い立地での開催ということで、例年のように多くの方に交流会にご参加いただけるか関係者一同心配しておりました。実際に事前申し込みの段階では、申込者が 205 名（一般 203 名、学生 2 名）であり、目標 400 名の人数には到底及ばず、当日の申し込みに期待する形になりました。しかし、70 周年記念式典後の祝賀会ということに加え、学会参加者のご協力と実行委員の努力もあり、大会期間中の当日申し込みが順調に増え、開催に至りました。

最終的には、交流会の当日参加申し込み者は、一般 139 名、学生 17 名で合計 156 名となり、事前申込者数を加えると計 361 名となり、盛大な交流会を開催することができました。

交流会にご参加いただいた多くの方々に、この場をお借りし、厚くお礼申し上げます。

3.2 次第

交流会は、70 周年記念式典後の 18:30 に司会より開演が告げられ予定通り開催されました。まず、桑野二郎実行委員長より参加者へのお礼を込めた挨拶の後（口絵写真-15）、大谷順会長に主催者代表としてご挨拶をいただきました（口絵写真-16）。大谷会長からは、来賓及び関係者への謝意とともに、地盤工学会の社会への果たす役割を述べられました。

来賓として、国土交通省関東地方整備局局長の石原康弘様（口絵写真-17）、埼玉県知事上田清司様（口絵写真-18）、さいたま市副市長の阪口進一様（口絵写真-19）をお招きし、それぞれご祝辞をいただきました。

石原様には、地盤防災という観点から、国土交通省の防災・減災や国土地盤情報データベースなどの取り組みをお話いただき、地盤工学の役割を熱く述べていただきました。上田様並びに阪口様には、地元埼玉県若しくはさいたま市での災害履歴を踏まえたうえで、当地は決して災害が少ない地盤環境になく、災害への取り組みの重要性や地元のご紹介をいただいたうえ、地盤工学研究推進への大きな期待が寄せられました。

高橋直樹調査・研究部長により乾杯の発声をいただき祝宴が始まりました（口絵写真-20）。祝宴の料理と飲み物は、ラーメン、ピッツア、鉄板焼きなどの地元県産食材を使用した人気の高いメニューや埼玉県の地酒などご用意しました。参加者は、当日の申し込みも増え、予定通りの人数でしたが、盛況で料理も完食となり、飲み物も予想以上にお楽しみいただき、急遽、飲み物を増やす対応を取りましたが、限られた飲食の中での交流となってしまうことは、実行委員会として申し訳なく思っております。

交流会終盤には、次回開催地であります関西支部を代表して三村衛実行委員長から、次期の第55回地盤工学研究発表会（京都大会）のPRを兼ねたご挨拶をいただきました（口絵写真-21）。最後に、安田進関東支部支部長による閉会の挨拶で交流会を終えました（口絵写真-22）。

3.3 おわりに

さいたま大会は、首都圏での開催ということから、当初参加人数が少ないのではとの心配がありました。70周年記念ということに加え、技術展示も79ブースの展示と盛況で、交流会にも多くの方々にご参加いただきましたことを改めてお礼申し上げます。

最後になりましたが、ご多忙中、交流会にご臨席賜りましたご来賓の皆様、交流会開催にあたり準備、実施にご協力いただいた関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

4. 特別講演会

4.1 はじめに

特別講演会は、大会2日目の7月17日の午後、地盤工学会創立70周年記念事業の一環として、大宮ソニックシティホール内の小ホール（メイン会場）（口絵写真-23）と国際会議室（サテライト会場）で開催されました。両会場は専用回線で結ばれ、小ホールの映像と音声は国際会議場へ同時中継されました。

特別講演会が始まる2時間ほど前から来場者が集まり始めましたが、会場設営の都合上しばらくは小ホール前のロビーでお待ちいただきました。小ホールは、開場後徐々に席が埋まり始め、開演30分前にはほぼ満席の状態となったため、サテライト開場の国際会議室に誘導をさせていただきました。

開演直前には、小ホールでは後方に立ち見の聴講者も見られました。また国際会議室もほぼ満席の状態になりました。

4.2 次第

特別講演会は2部構成で行われ、樋口俊一学会創立70周年記念事業委員会副委員長の司会で進められました（口絵写真-24）。

はじめに開会の挨拶として、古関潤一学会創立70周年記念事業委員会委員長より挨拶が行われました（口絵写真-25）。

第1部は、東京工業大学名誉教授・元地盤工学会会長の吉見吉昭先生より「地盤工学会のアイデンティティ—国際性と学際性—」と題したテーマで約45分のご講演をいただきました（口絵写真-26）。

1949年の地盤工学会の前身であります「日本土質基礎工学委員会」の発足当時から土質工学会、そして地盤工学会へのあゆみや学会の国際貢献などについて、歴代学会長らとのエピソードを交えてご講演いただきました。非常に懐かしいお写真やお名前を拝見し、大変興味深く拝聴いたしました。

なお、吉見吉昭先生のご講演の詳細につきましては、2012年1月発行の学会創立70周年記念号で特集としてご紹介予定です。

第2部は、国土交通省前事務次官（現同省顧問）の森昌文様より「国土交通行政が地盤工学会に期待すること」と題したテーマで約45分のご講演をいただきました（口絵写真-27）。

前半は、国土交通行政で行われている新プロジェクトや老朽化するインフラ対策、ICTの導入等について地盤工学関連事業を中心に講演いただきました。

つづいて、近年の異常気象により発生が増えている大規模な地盤災害について、未然に防げるように国土強靱化を目指し、防災・減災対策において地盤工学会の果たす役割は非常に大きく、期待をされているとご講演でした。

4.3 おわりに

今回は、学会創立70周年記念事業の一環として、また一般の市民にも開放して行われました。会場においては立ち見が出るほどの多くの方にご参加いただきました。

お忙しい中、ご講演をいただきました吉見吉昭先生と森昌文様に改めてお礼申し上げます。

また、開催にあたりまして、ご協力をいただきました関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

5. 市民向け行事

7月16日の午後には、市民向けの講演会「知りたい！宅地の安心、安全講演会」が開催され、約80名の参加をいただきました（口絵写真-28）。講演会では、関東平野の成り立ち及び地形と地質の話題、実際の戸建て住宅における相談事例、住宅地盤をめぐる紛争の仕組みや解決方法などについての講演がありました。講演を通じて、住まいの安全を得るには、所有者自らが地形や土地の成り立ちを理解して適切な判断を下す必要があること、また、住宅紛争に巻き込まれないためには、普段から書面などによる証拠を残し、消費者と供給者間で認識の違いや疑問点を残さないようにすることが重要であることなどが伝えられました。

また、7月16日～18日には、大宮ソニックシティホールで市民向けの無料住宅地盤相談会が行われました。相談会場には、さいたま市や東京都北部地域の地形図・土地条件図なども展示されており、来場した方は、平坦な平野だと思っていた関東平野に、実は複雑に入り組んだ谷地形が数多く隠れていることに興味を示していました。

6. さいたま大会開催における関係者へのお礼

さいたま大会開催にあたりまして、様々な立場の方々から多大なご支援とご協力をいただきました。

特に今回は、地盤工学会創立70周年記念事業も行われたことから準備の段階からさいたま大会実行委員会と学会本部との間で多くの調整があり、その都度、調査・研究部会研究発表委員会からは適切な助言をいただきま

した。

さいたま大会からの新たな取り組みとしまして参加登録費の納入で Web（カード）決済の導入、従来の DVD 講演集を廃止してダウンロード形式に移行しました。事前に申し込みを行った参加者には事前にダウンロードできるように ID とパスワードを発行し、当日申し込まれた参加者には会場（技術展示場内）の 2 カ所に設置したダウンロードコーナーで講演集のデータを入手できるようにしました。これらにつきましては、本部理事会において、調査・研究部会を通した実行委員会からの提案をご承認いただくとともに、さいたま大会の成功に向けた有形無形の多くの応援をいただくことができました。

また、過去に東京（関東支部）で開催した大会は、他支部で開催された大会より投稿数及び参加者数が減少しており、今回も参加者の減少が危惧されていましたが、関係各位のご協力により 2 000 名を超えることができ、実行委員会一同胸をなで下ろしております。

10 年に一度の周年大会は関東支部で行われることになっており、さいたま市において開催するに当たり後援をいただきました国土交通省関東地方整備局、埼玉県、さいたま市に改めて感謝申し上げます。

（公社）埼玉県産業文化センターには、会場の確保調整や補助金・助成金の申請補助、観光案内等の配布物の無料提供等、さいたま大会の準備段階から開催当日まで、様々な場面できめ細かいご支援をいただきました。

さいたま大会への発表論文の投稿や参加登録のシステム構築につきましては、トーヨー企画（株）に依頼をしました。大会ホームページの作成、会場の設営及び運営補助では、東武トップツアーズ（株）に依頼をして、担当者とは何度も打ち合わせを重ね、会場の構造や利用時間による制約から生じる様々な問題に対して解決策を見出しながら当日を迎えました。

さいたま大会開催においてご支援とご協力をいただいたすべての方々にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

最後に、本稿をまとめるにあたり、さいたま大会実行委員会行事部会副部会長の東京工業大学教授の高橋章浩先生をはじめとする多くの実行委員にご協力を得ました。ここに記して、謝意を表します。

（文責：峯岸 邦夫）

（原稿受理 2019.8.26）